

IUT Innovator 賞の受賞を受けての声明

2024 年 4 月

望月新一（5 人の共著者を代表して）

まず、IUGC 所長の加藤文元氏、それから川上量生氏の、宇宙際タイヒミュラー理論関連事業に対する、並々ならぬご熱意・ご支援の姿勢に対し、この度、受賞対象となった論文の 5 人の共著者を代表して、この場を借りて改めて深く感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

論文は、フェルマ予想の別証明が従うという観点から、一時、マスコミからも注目されましたが、以前から度々指摘している通り、宇宙際タイヒミュラー理論の真の本質・重心は、特定の数値的な帰結よりも、足し算と掛け算の関係性の理論的解明という、整数論における中核的な課題に対する一つの解答を、遠アーベル幾何学を通して実現しているところであると専門家は考えております。そのような視座から今回の受賞対象となった論文を眺めてみると、具体的な数値的帰結には程遠い位置にあった従来の遠アーベル幾何学の研究成果と違って今回の論文によって、

遠アーベル幾何学には具体的な数値的な帰結をもたらすだけの威力がある

ことが初めて明示的に示されたところに、論文の本質的な意義があると理解しております。

論文が、多種多様な専門性を有する共著者 5 人の共同研究から誕生した経緯が示している通り、宇宙際タイヒミュラー理論および関連した遠アーベル幾何学の発展は、多数の研究者が織り成す研究コミュニティによる協力体制によって支えられており、今後の発展を支援することの重要性に対する認識から、賞金は、京都大学数理解析研究所への寄付という形で、宇宙際タイヒミュラー理論および関連した遠アーベル幾何学の今後の発展に役立てるために活用することを目指したいと考えております。